

1 2月になりました

「1月行く、2月逃げる、3月去る」とは実によく言い表したもので、つい先日、新年を迎えたかと思っていたら、あっという間にひと月が過ぎてしまいました。

コロナ感染症の再拡大で、時間の感覚がおかしくなってしまうようですが、確実に月日は流れています。3年生は、6日から家庭学習になり、1・2年生も、あと3週間余りで学年末試験に臨みます。15日には、皆さんの後輩である中学3年生の入学志願票受付が始まります。3年生は、本校を巣立ってそれぞれの道へ進む時が近づいてきました。好スタートで新生活を始められるよう、準備を整えていってほしいと思います。また、1・2年生にとって今は、新2・3年生ゼロ学期といえます。

『時間は有限、夢は無限』、一日一日を大切にしていきましょう。



2 自分を100度に沸騰させる「部品みがき」

最近読んだ本に書かれていた内容の一部を紹介したいと思います。

がんばって努力しているのに、なかなか成果につながらないことがあります。求めれば求めるほど、遠くなってしまう。いろいろと試行錯誤をくり返しているうちに、自分はこれでいいのか、このままでいいのか、という思いにとらわれたりするでしょう。

私も同じでした。同じどころかもっと深刻なものでした。そんな悩みに直面したときは、「今は、自分が持っているたくさんの『部品』をみがいているのだ」と考える。

実際、部品をコツコツとみがいている段階では、それはムダな作業にも思えます。

近い将来の「完成した形」が見えているのなら、その部品をみがいている意義もわかりますが、どんな形にでき上るのか皆目見当もつかず、また、その部品が仕上がりの中の部分のものなのか、わからない状態では、みがき続ける意欲も萎えてくる。しかし、そんな中でもみがき続けてきた部品たちは、バラバラだったものにもかかわらず、ある日突然一つにまとまって、素晴らしい「完成品」になるのです。

「部品みがき」とは、いうならば基礎練習。この基礎練習が基礎体力と基礎技術をつくっていく。

たとえば、何かのスポーツを始めたとき、最初は、自分に才能があるかどうかなどは考えないでしょう。ただひたすら、基礎の練習を繰り返したはずで、それがどんなにつらくとも、とりあえずは取り組んでみる。これがもし、「こんなことをやって、何の意味があるんだろう」とか、「ただ走っているだけで、試合で役に立つのだろうか」と疑ってかかったら、たちまち練習に身が入らなくなる。基礎練習が大事なことはスポーツに限らず、何の世界においても言えることだと思うのです。そうは言っても、基礎練習はつらいもの。しかし、これを続けること、つまり、「部品」をみがき続けることで、素晴らしい完成品が生まれてくるのです。

私がよくたとえて言うのですが、水は100度にならないと沸騰しません。100度になるためには、冷たい水を火にかけ、20度、50度と徐々に温めていかなくてはなりません。

「部品みがき」も同じです。いろいろな部品をみがき上げていくことで、次第次第に温度は上がっていく。そして、いよいよ90度になって、あともうひと息がんばって火を燃やせば100度になって沸騰するというとき。ここで、あと残りいくつかの部品をみがき上げる、あるいは、部品全体に最後のひとみがきをかける、それで100度になるのです。

しかし、せっかく90度まで来ているのに、そこであきらめてしまう人がなんと多いことか。

今の自分が水だとしたら何度なのか。50度なのか、90度なのか。

そんな自分の「立ち位置」を考えてみることも、部品みがきに精を出し、自分を沸騰させる秘訣でしょう。

平山郁夫著『ぶれない 骨太に、自分を耕す方法』から)